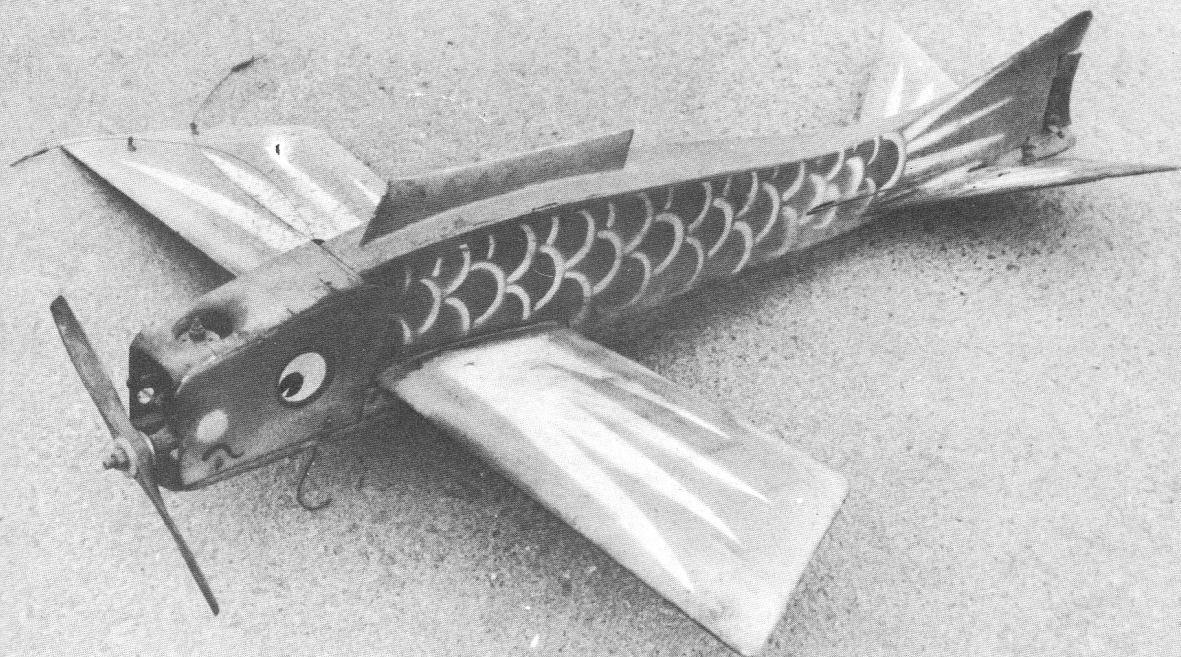




端午の節句に飛んだUコン機

『空飛ぶコイノボリ』

第2次大戦後、日本へ進駐してきた連合軍によって、模型飛行機が禁止されたことがありました。時を同じくして、アメリカの将兵によってUコン機が紹介され、その飛行方法を教わった日本のマニヤたちがUコン機を飛ばしはじめましたが、「飛行機がだめなら…」と『空飛ぶコブタ』を製作された故北村小松氏の話は有名です。

その後、東京の多摩川の河原から、コイノボリが排気音を響かせながら舞いあがりました。それが写真の機体の原形で、

鈴木秀哉氏の製作した『空飛ぶコイノボリ』だったのです。

その後、昭和38年に再び製作し、その年の端午の節句に初飛行したのが写真の機体です。本機のエンジンはマミヤ 275 を装備し、オール・バルサで製作されており、着陸はスキッドで行ないます。

本機の特徴は、胴体のスタイルから垂直尾翼を大きく作れないので、ラダー部を可動として、エレベーター・ホーンと連動させて、アップを大きくするとラダーの角度が大きくなるようにしています。また、着陸時に尾翼が地面に当たらないように、水平尾翼に上反角を付けてあります。

『作ってからずいぶんたちますが、大空を飛ぶ赤いコイノボリの姿が忘れられず、現在も天井からぶらさげて、当時を思い出しています…』と鈴木氏は話しておられました。

★本機的主要諸元

全長	720mm
全幅	690mm
主翼面積	9dm ²
全備重量	450 g
エンジン	マミヤ 275

